

特集序言

「東海支部から発信する油化学」の 企画と編集にあたって

間 瀬 暢 之

(静岡大学 グリーン科学技術研究所)



1951年11月21日に発足した日本油脂化学協会(現 日本油化学会)は14委員会,3支部(関東,東海,関西),5専門部会(オレオマテリアル,界面科学,洗浄・洗剤,ライフサイエンス・産業技術,オレオナノサイエンス)により組織されており,次の4つの公益目的事業を通じて社会への貢献に努めております。

- ・事業1:研究成果の公開,人材教育,研究の奨励及び研究業績の表彰を行う事業
- ・事業2:評価・試験法の標準化と普及を行う事業
- ・事業3:地域における学術の振興と普及を行う事業
- ・事業4:学術専門分野の活性化事業

東西・南北に3000kmずつある細長い島国である日本には,それぞれの地域にそれぞれの特色があり,事業3は油化学が発展する上で鍵となる事業であります。そして,地域の油脂・脂質,界面活性剤及び関連分野の研究者・技術者の知識向上・情報交換の場として,また広く国民に油化学に関連する油脂・脂質,界面活性剤及び関連する製品についての技術情報を正しく,わかりやすく啓発する場として,地方都市でのセミナー開催等,諸々の学術の振興と啓発事業を行っております。

関東,東海,関西の3つの支部を代表して,「東海支部から発信する油化学」と題した今回の特集において,学術的な知見をもとに優れた商品開発を実践している東海地区の企業の研究者にご執筆いただきました。まず,太陽化学株式会社の樋口智則先生に「乳化・可溶化の基礎～ポリグリセリン脂肪酸エステルを用いた事例～」についてご紹介いただきます。続いて,竹本油脂株式会社の木村裕先生に「界面活性剤の不織布分野への応用」について解説していただきます。次に,ミヨシ油脂株式会社の伊野大記先生に「粉末油脂の特性と食品への応用例」,そして辻製油株式会社の園良治先生に「リン脂質や糖脂質の機能性の新たな展開」についてご紹介いただきます。商品開発までの紆余曲折,そして,事業化するために必要なヒントがちりばめられております。本特集が,基礎から応用の俯瞰を目指す研究者,特に若いオレオサイエンス読者の皆様には有益な情報となれば幸いです。また,ご多忙の中,執筆していただきました先生方に厚く御礼申し上げます。